

旧復鉄道山彦田日

委大分県
政府交渉

田村衆院議員ら同席 国交省に実現迫る

日本共産党大分県委員会は21、22の両日、日田彦山線の早期復旧など県民要求実現を求めて政府交渉をしました。堤栄三、猿渡久子県議ら地方議員12人が参加（日田市から日隈市議が参加）。田村貴昭衆院議員、真島省三前衆院議員、仁比聡平前参議院議員が同席しました。

日田彦山線問題で日隈知重市議は、災害から2年たつのに河川改修も農地復旧も進まず、住民説明会でJR九州副社長が鉄道復旧と河川農地復旧は別物だと思っていたと述べたことを指摘し、国交省として早期復旧をJR九州に指導するよう求めました。「関係自治体とJR九州で充分議論していただきたい。鉄道復旧を決めるのは一義的には鉄道事業者だ」と繰り返し国土交通省に

し、仁比氏は「鉄道はJRのもうけのための事業ではなく公共交通だ。災害から復旧するのが当たり前だ」と迫りました。

田村議員は、地元負担をとまなう鉄道での復旧、BRTなどの「JR3案を3自治体は認めていない。住民と自治体は鉄道しかないが結論だ」と述べ、国交省は鉄道での復旧をJR九州に強く指導するよう求めました。



国交省に鉄道復旧迫る（2列目右から）日隈市議、田村衆院議員、真島前衆院議員、仁比前参議院議員（22日、衆議院第二議員会館）

厚労省の検討結果の説明求める

生活保護
夏季加算

電気代が心配でクーラー使わない状況

堤栄三、猿渡久子県議ら地方議員12人は21、22の両日、生活保護の夏季加算など事前に質問していた項目について、各省庁からレクチャーを受けました。日田市から日隈知重市議が参加。

生活保護受給者が、夏場に適切にエアコン利用できるように夏季加算の創設はできないか、厚労省の説明を受けました。

厚労省の担当は「生活保護は毎月、生活扶助として食費、被服費、光熱費について一定の金額を支払う仕組み。光熱費をみると、冬場に金額がかかる。そのため夏季加算を別に支払っている。夏場は年間平均に比べていずれも低いという社会保障審議会基準部会の検証を踏まえて、夏季加算を創設するのは困難と考えている」と説明しました。

日隈市議は「暑くても、クーラーを使いたくても使えない。水をかぶって暑さを我慢しているのが生活保護を受けている方の生活だ。使わないから光熱費の数字に出ない。生活保護世帯の生活実態を検証して、夏季加算を検討しても

らいたい」と訴えました。大分市の岩崎市議も「夏季加算の創設について、電気代だけで判断しているのは議論不足ではないか」と指摘しました。中津市の川内市議は「天気予報で度々、災害級の暑さという言葉が使われている。冷房を適切に使ってと注意しているが、生活保護を受けている方はクーラーがないか、クーラーがあっても使えないところが多い。結局、熱中症になって医療費がたかさんかかると合理的ではない」と訴えました。

厚労省の担当は「公的なデータに基づいて検証した」と繰り返し説明しました。



「水をかぶって暑さを我慢している」と訴える日隈市議